

(件 名)

コミ協懇話会の実施について（報告）

(地域支援課市民協働係)

1 趣 旨

平成21年度に全地区のコミュニティ協議会が設立され、各地区で1%交付金を活用して、様々な活動が行われている。各地区で特色ある活動が行われている一方で、参加者の減少、担い手不足、マンネリ化等、様々な課題が生じてきている。

さらに、今年度はコロナ禍もあり、例年どおりの活動ができない状況であった。今年度のコミ協懇話会は、このような状況下でも活動を実施した事例を軸に、各地区で情報交換を行った。

2 内 容

日 時：令和3年1月29日（金）午後1時30分～午後3時

場 所：菊川市役所東館プラザきくる3階会議室

参加人数：10 協議会 22名（1 協議会欠席）

テ ー マ：コロナ禍におけるコミ協活動と情報交換会

会議形式：①4団体による事例発表（詳細別紙）

②事例発表で出た質疑を中心に、全体で意見交換を実施

3 主な意見（アンケート回答から抜粋）

分 類	内 容
他地区の状況について	<ul style="list-style-type: none"> ・他地区の様子が聞けてよかった。 ・それぞれコロナ禍で工夫していることがわかった。 ・他地区の具体的な活動内容を聞いた。
今年度の活動について	<ul style="list-style-type: none"> ・3密を回避した活動を知ることができた。 ・「こども昆虫展」のような新しい活動が必要と思った。 ・子どもたちが参加しやすいコミュニティイベント活動をしていることが印象に残った。 ・リモートを利用した活動もありと感じた。 ・地区内会員の方に紹介したいと思った。
役員の決め方について	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足に対する工夫が聞いた。 ・イベントをチャンスに会員を増員することが必要。 ・自治会との連携についてももう少し考えたい。 ・コミ協の役割分担について考えさせられた。

4 総 括

コロナ禍の中、新しい生活様式に対応した活動事例を各コミュニティ協議会に共有できた点に一定の成果があったと感じている。

今回、聞いた事例や対策方法を、令和3年度のコミュニティ協議会活動に、活かしていきたい。

コロナ禍におけるコミ協活動 事例発表

活動名	①みねだお元気会(10/13実施) ②小笠山自然教室(11/15実施) ③みねだフォト&川柳作品展(12/7~1月末日実施)		
団体名	みねだ地域づくり協議会		
活動概要	①お元気会  Love Story "愛染かつら"再び! 肩こり予防講座で快適生活 一人暮らし高齢者・高齢者世帯を対象に地域サポーターが中心となり、高齢者の社会での交流の場を企画運営している。 肩こり 防止講座・漢字クイズ・紙芝居「愛染かつら」	②小笠山自然教室  小笠山の自然環境に触れることで新しい発見に興味をもち、自然の尊さや命の大切さを学び、地域住民との連帯感を育み、楽しい1日の思い出をつくることを目的とする。	③フォト&川柳作品展  コロナ禍の中、希薄となった住民どうしの交流の場として、写真や川柳を募集し、作品を通して心とくひとときを提供することを目的として実施。(館内展示・おたよりに掲載し回覧)
前年度との変更点	高齢者を対象とした事業が多いため、いずれの事業も新型コロナウイルス感染拡大防止に最大限配慮し、できる限りの対策を実施した。(検温、手指消毒、マスク着用、社会的距離、換気、参加者名簿作成等) また、会館祭り中止に伴い、その代わりに新規事業「みねだフォト&川柳作品展」を立ち上げた。		
特に注意したこと	コロナ禍において様々な交流が縮小または中止となり、例年よりも希薄となってしまった住民どうしの関わりを深めるため、どんな配慮をすればどんな活動が実施できそうか協議しながら取り組んできた。とくに、引きこもりがちな一人暮らし高齢者や高齢者世帯、幼い子がいる親子に目を向け、地域の輪の中に取り込むよう意識して声を掛けるようにした。		
所感	◆年度当初計画していた24事業のうち、実施できた事業は8事業にとどまり、実施に向けて準備中の事業1つ、準備しつつも実施できるかどうかまだ不確定な事業が2つと、今年度は、大幅な活動減となってしまった。 しかしながら、例年は各部会とも事業に追われつつ忙しく活動しているため、なかなか自分たちの活動について振り返る機会を持つことは難しいが、今回は、それぞれの事業について、実施可能かどうかの協議から始まり、地域への貢献度や安全な開催方法、準備物等、幅広く意見を出し合い検討することができた。 ◆各事業について ①お元気会(高齢者サロン) 高齢者が外の空気に触れながら、情報交換・仲間づくり・認知症予防等生涯の健康づくりの場として、楽しみながら自立と社会性を育むことを目的としている。毎回、参加者から大好評で次回を望む声が多く聞かれる。今回も体を動かしたり歌を歌ったりと工夫を凝らした内容で、参加者もスタッフも大いに楽しむことができた。 ②小笠山自然教室 夫婦での参加・親子での参加と今年も定員を上回る多くの参加があった。今年は講師に初めてのコースを選択してもらい探索のコースとした。新規参加者と共に前回参加の小学生が「楽しかったので今年もきた」と言っていたようにリピーターも増やしていきたい。 ③みねだフォト&川柳作品展 例年地域を盛り上げる看板行事「みねだ会館祭り」が中止となり、地域の賑わいに少しでも貢献できないかと企画した。展示写真20点・川柳57句の作品応募があり、会館を訪れた住民に心とくひとときを提供できたのではないかと。また、おたよりに作品を掲載し広報に努めた。 ※その他、ソーシャルディスタンスを保ちながらの花壇整備、例年のように一堂に会しての活動はできなかったが、各自治会において取り組んでもらった「福祉見守りマップ更新ミーティング」(災害時要援護者や一人暮らし高齢者の登録及び発災時の具体的行動の確認等)など、感染対策に配慮しつついくつかではあっても実施できたことはよかった。コミ協の活動が地域を支えているという思いを今後も大切にしていきたいと考えている。		

コロナ禍におけるコミ協活動 事例発表

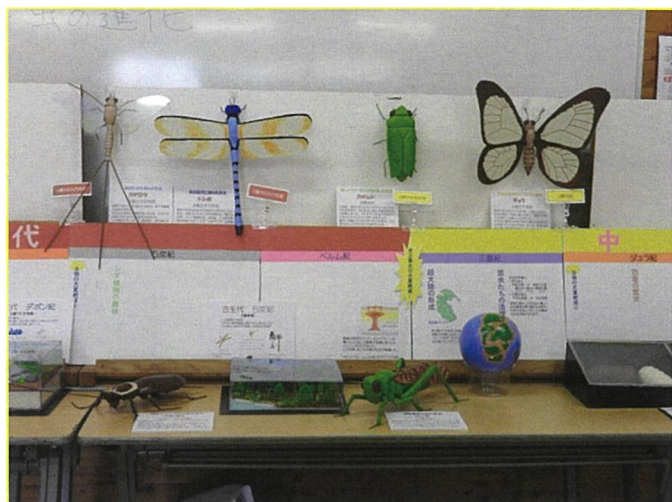
活動名	第37回横地地区センターまつり (展示・発表会) 令和2.11.8
団体名	横地コミュニティ協議会
活動概要	<p>*例年と異なり、コロナ禍の中、規模縮小にて開催することを部会・委員会に確認し実施することに踏み切った(横地コミュニティ協議会会合)</p> <p>*横地地区センターまつりには欠かせない小笠高校吹奏楽部・草花部に出演依頼をまずは確認し快く承諾を頂いたので、次の準備に取り掛かった。</p> <p>*地域住民との関わりを繋げるためにも例年実施している民生児童委員主催のバザー(横地っ子バザー)を開催することを決定した。開催するにあたり各家庭に提供品依頼の案内を回覧した。</p> <p>*本来であれば各活動委員会に模擬店を企画して賑わいを演出するところ中止し、各委員会の次期代表者に来年度の開催の雰囲気を持って貰うためお手伝いを依頼した。</p> 
前年度との変更点	<p>*センター入口で健康づくり推進委員に住民来場者の検温を実施し、受付で来場者LISTに記入を頂いた。(消毒液は各所に設置)</p> <p>*小笠高校吹奏楽部に吹奏楽専用マスクを用意して頂き出演を依頼した。</p>
所感	<p>*小笠高校吹奏楽部の演奏を聴きに、地域の皆さんはこの時間を楽しみに集まり、また、横地の各家庭に演奏曲が響き渡りセンターまつりの始まりを知らせます。</p> <p>*草花部の生徒さんは毎年5~6人の参加ですが、今年は先生を含め13名の参加を頂きました。現在‘きくる’等で開催されている高校生のイベントは横地のセンターまつりが発祥の原点です。</p> <p>*毎年、ふれあい農園で収穫したサツマイモを焼芋として販売していましたが、今年はサツマイモ募金に切り替‘社協’に提供しました。</p> <p>*コロナ禍の中では有りましたが、開催した意義が有ったと思い、やはり若い高校生のパワーは地域住民に希望を与え、参加された高校生にも良き思い出となったのでは・・・と思います。</p>

【こども昆虫展】令和2年7月31～8月2日（日）

今年もたくさんのカブトムシを集めた「こども昆虫展」を開催しました。初日から多くの子供たちが訪れ、カブトムシを観察していました。

昆虫博士で会員の菅谷さんによる展示「地球の歴史と昆虫の進化」はまるで生物学です。

昆虫博士 菅谷さんによる展示



体温チェック



カブトムシ平気だよ、大好き



来場者が多すぎたので、待っている方にヘラクレスやエラフスゾウカブトをお見せしました。



絵柄浮かぶ竹灯籠完成

菊川で地域住民が講座

竹灯籠作りの講座が菊川市の平川コミュニティ防災センターであり、地域住民ら三十二人がクリスマスやお正月をイメージした一点物の灯籠を完成させた。

市民団体「たねあかり」の会員が作り方を手ほどきした。参加者は、ツリーやフクロウなどのデザイン画

から好みの一枚を選んで竹に貼り付け、上からドリルで小さな穴を開けて絵柄を竹に写し取っていった。

出来上がった竹灯籠の内部に明かりを入れると、絵柄が浮かび上がった。参加者は「竹が硬くて、ドリルで穴の大きさを加減するのが少し難しかった。家でラ



出来上がった竹灯籠に明かりをともし子どもたち＝菊川市平川コミュニティ防災センターで

イトアップしたい」と話した。

竹灯籠作りの面白さを知ってもらおうと、平川地区コミュニティ協議会などが開いた。
(河野貴子)



{ 竹にツル }
お勉強



みんな、もくもくと
ゴリ!ゴリ!!
しています



コロナ禍におけるコミ協活動 事例発表

活動名	みなみやま会館まつり
団体名	みなみやまコミュニティ協議会
活動概要	<p>新型コロナウイルス感染症拡大により、イベントの中止や地域交流が滞り、地域が暗く沈んでいる。感染が拡大する中、会館まつりの中止も考えたが、地域に明るい話題と交流の場、子どもたちの作品発表の場を提供したいと検討を重ね、対策を講じて今できる限りの規模の会館まつりを開催した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">〈展示会場〉 〈お菓子すくい〉</p>
前年度と の変更点	<p>例年会館の内外でステージ発表、そば振舞い、餅まき、模擬店、ふわふわ、作品展示等、来場者・スタッフ計約2,000名で開催しているが、本年は感染症に配慮し、来場者の把握、館内の入場制限人数(60名)、スタッフの削減を念頭に2日に分け、館内だけで作品展示、お菓子すくいをメインに開催した。 来場者数：11/2 200名、11/3 300名 スタッフ25名(2日間)</p>
特に注意 したこと	<p>事前：各戸配布チラシに感染予防協力依頼・体調チェックシート(当日持参)を掲載 受付：体温チェック、体調チェックシート(氏名、連絡先)の確認、入口・出口を分ける、マスク着用・手指消毒の徹底、入場者数制限(60名)、 館内：密集・密接を避けるため、①整理券(60名)配布、②作品鑑賞順路を一方通行、③2m間隔に足形マークの貼り付け、④スタッフの巡回 スタッフ：体調チェック、手指消毒(随時)、手袋・マスクの着用、使用物の消毒</p>
所 感	<ul style="list-style-type: none"> ・館内の作品展示に限ったことで例年以上に作品が集まり、また会場を広く使え、ゆとりを持った展示ができた。 ・新企画のフォトコンテスト、お菓子すくいが好評だった。 ・コロナ禍でイベントの中止が続く中、開催に制限が多かったが、今年度初めての地域交流の場ができた。 ・来場者が予想以上に多く、地域が交流の場を求めていることを実感した。 ・中日、静岡両新聞に掲載されたことで地域の明るい話題となった。 ・事前に体調チェックリストを各戸配布したことで、受付がスムーズに流れ、来場者を確実に把握することができた。 ・感染の確認も事故もなく、盛大に開催できたことに南地区自治会長をはじめ、関係各位に感謝いたします。